広報紙
ほっかいどう
その先の、道へ。北海道
年5回発行（5・7・9・11・2月の下旬）
北海道
2016年8月号
平成28年7月発行
通巻216号

道産品が当たる！
裏表紙をチェック！

【特集】北海道らしい安心の暮らしづくり

誰もが笑顔で暮らせるように。住んでいて良かったと思える北海道づくりを進めていきます。

一人一人が社会の中で活躍し、子育てなど安心して暮らせるまちづくりを目指して「住まいる北海道」プロジェクトを進めています。

地域に暮らす誰もが安心と豊かさを実感できる北海道をつくりましょう。

北海道知事 高橋はるみ

人口減少は暮らしに直結する問題です

北海道がいま直面している大きな課題は、人口減少問題です。北海道では全国を上回るスピードで人口減少が進み、現在の人口の約540万人から、2040年には約419万人にまで減少すると予測されています（国立社会保障・人口問題研究所推計）。

人口減少の要因には、少子高齢化に伴って死亡数が出生数を上回る「自然減」と、若年者が進学や就職などで道外に転出する「社会減」があります。北海道は1998年以降、社会減が自然増を上回ることで人口が減り始め、2003年以降は自然減と社会減が相まって人口減少が加速しています。

今後、人口減少がさらに進むと、生産・消費など経済活動の深刻な停滞を招くほか、税収額が減少して行財政を取り巻く環境が深刻化し、地域の暮らしや経済を支える重要な機能が危機的な状況になると予想されています。

未来に向けた5つの重点戦略プロジェクト

そこで道では、「北海道創生総合戦略」に基づいて人口減少問題への対応を進めています。この戦略では、「幅広い世代が集い、つながり、心豊かに暮らせる包容力のある北海道」をめざす姿とし、次の5つの重点戦略プロジェクトを中心に取り組んでいます。

1. 安心のまち・暮らし「住まいる北海道」プロジェクト
2. 北のめぐみ「資源・ひと・経済好循環」創出プロジェクト
3. 未来を拓く「攻めの農・林・水産業」確立プロジェクト
4. 輝く「アジアのHOKKAIDO」創造プロジェクト
5. 多様な交流・連携と「北海道型地域自律圏」形成プロジェクト

この重点戦略プロジェクトに取り組む背景には、2つの考え方があります。恵まれた自然環境、個性豊かな歴史、文化、産業など、北海道ならではの地域特性を生かした「北海道価値の磨き上げ」を行うこと。また、本道の基幹産業である農林水産業の成長力を強化しながら、食や観光分野を中心に、アジアをはじめとした海外需要の取り込みを図って「北海道産業の競争力の強化」を行うことです。

このように、暮らしと経済の両面から北海道の強みを発揮し、人口減少の危機克服を目指します。

笑顔の暮らしへ「住まいる北海道」

重点戦略プロジェクトの中で、道民の皆さんにより密接なのが「安心のまち・暮らし『住まいる北海道』プロジェクト」です。

このプロジェクトは、誰もが活躍することができ、心豊かに暮らせる環境づくりを進め、多くの人を呼び込むことができる地域社会をつくることを目的にしています。

地域ぐるみで結婚・妊娠・出産、子育てなどをサポートする「安心して子育てできる環境づくり」、女性や若者、高齢者など誰もが「いきいきと輝く活躍の場づくり」、移住促進や企業誘致などで多くの人を呼び込む「北海道の暮らしの価値づくり」などがプロジェクトの柱です。

中面では、その具体的な取り組みを紹介します。

北海道クイズ

北海道の愛食運動をPRするキャラクターの名前は？

大地くんと め○みちゃん

答えは中面下に▶

▶特集（表紙部分）に関するお問い合わせ
道庁地域創生局地域戦略課 ☎(011)204-5131　http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/csr/jinkou/senryaku/senryaku.htm
「北海道創生総合戦略」は、道のホームページで閲覧できます。 北海道創生総合戦略 検索

発行／北海道総合政策部知事室広報広聴課 〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目 ☎(011)204-5110 FAX(011)232-3796

特集 北海道らしい安心の暮らしづくり

暮らしの質を高め、たくさんの笑顔を育むために。

安心のまち・暮らし「住まいる北海道」プロジェクトは、暮らしの質を高める取り組みです。道内各地で進められているさまざまな事例を紹介します。

安心して子育てできる環境づくり

●どさんこ・子育て特典カードが全国共通に

道では、子育て家庭を応援しようと「どさんこ・子育て特典制度」を広めています。

この制度では、妊婦さんや小学生以下の子どもがいる世帯を対象に、市町村を通じて特典カードを配布。子どもと同伴での買い物や施設利用の際に特典カードを提示することで、協賛店舗からさまざまなサービスを受けられます。

さらに今年度から、このカードが道外でも使えるようになりました。子育て支援パスポート事業の全国共通展開に参加する41道府県で利用できます。道外で利用する場合には、特典カードにある「全国共通ロゴマーク」のステッカーなどが掲示されている協賛店舗が対象となります。詳しくはホームページなどでご確認ください。

全国共通ロゴマーク

どさんこ・子育て特典カード

ハグクム　どさんこ・子育て　検索

▶道庁子ども子育て支援課 ☎(011)204-5235

子どもと一緒に身近な地域を楽しんでみませんか。

NPO法人お助けネット
代表 中谷 通恵さん

子育て中のお母さんの気持ちに寄り添い、親子でのびのびと過ごせる場づくりに取り組んで12年目。私たちの活動は困っている人などに直接届く支援ですが、行政によるサービスは広く行き渡る支援で、どちらも大事な役割を果たしていると思います。

その点で「どさんこ・子育て特典カード」は、子育て家庭なら誰でも気軽に使えて便利ですね。子育て中は地元で買い物をする機会が多くなる分、身近な地域で利用できる店舗や施設が多いほどお得感やワクワク感もあり、子どもと散歩がてらお出かけするのが楽しくなりそうです。

もっと多くの企業や商店の皆さんに、この取り組みに参加してもらえるといいですね。

●不妊治療の経済的負担を軽減

赤ちゃんを授かりたいと不妊治療を受けているご夫婦の経済的負担を軽減するため、道では特定不妊治療費の助成を行っています。対象となる治療は、体外受精および顕微授精。治療を始める妻の年齢が43歳未満の夫婦で、道が定める要件を満たしている場合に助成を受けられます。

また、今年度からは道独自の制度として、第2子以降の治療ごとに最大で6回の助成を受けられるよう制度を拡充しました。申請は道立保健所で受け付けていますので、気軽にご相談ください。

北海道　特定不妊　検索

▶道庁子ども子育て支援課 ☎(011)204-5236

いきいきと輝く活躍の場づくり

●女性の活躍を応援する相談窓口

さまざまな分野で女性が活躍できる環境をつくり、北海道を元気にしていこうと、道では女性の活躍を支援する取り組みを進めています。

その拠点が「北海道女性の活躍支援センター」。起業や子育てなど、女性のライフステージに応じたさまざまな相談に対応する窓口で、幅広い経験を持つ女性支援員がコンシェルジュとして専門の相談機関や専門家を紹介するなど、親身に対応します。

また女性の活躍に関する総合的なポータルサイト「北の女性★元気・活躍・応援サイト」では、起業や子育て、介護、就労などに関する支援制度や道内各地で活躍する女性の情報などを発信しています。フェイスブックを活用した交流の場なども広がり、女性のチャレンジを力強く応援しています。

▶北海道女性の活躍支援センター
札幌市中央区北2条西7丁目かでる2・7
6階 道立女性プラザ内
☎(011)204-5711
月・火・木・金曜10～16時、水・土曜10～13時
(日曜・祝日・年末年始は休館)

相談を受ける支援員

北海道女性の活躍支援センター　検索

一歩前に踏み出せるよう、チャレンジする女性を応援します。

北海道女性の活躍支援センター
支援員
名古屋 紋子さん

このセンターには、子育て中の30～40代を中心に幅広い世代の女性が相談にいらっしゃいます。その多くは「子育てをしながら働きたい」という意欲がある一方で、「自分にできるだろうか」という不安もあり、具体的にどう行動したらいいかを迷っているようです。

そんなとき、私たち支援員ができることは、お話を聴きながら悩みを整理して、一歩前に踏み出せるよう背中を押してあげること。最近では、趣味やスキルを生かしてスモールビジネスを立ち上げたいという相談も多く、子育て女性の起業意欲は旺盛です。

性別に関係なく、誰もが自分らしく輝くことのできる社会を実現していくことが、女性の活躍の場づくりにつながると思います。

●アクティブシニアの社会参加を応援

団塊の世代を中心とした元気で活力のあるアクティブシニアをはじめとする高齢者が、地域社会に積極的に参加できるよう、道では今年度、地域での助け合い活動やネットワークづくりなどのセミナーを開催します。

開催は8月以降で、右記の道内12カ所を予定。

詳しくは、委託先の社会福祉法人北海道社会福祉協議会地域福祉課にお尋ねください。

【開催地】●札幌市 ●函館市 ●倶知安町 ●岩見沢市 ●旭川市 ●羽幌町 ●稚内市 ●網走市 ●室蘭市 ●浦河町 ●帯広市 ●釧路市

▶社会福祉法人 北海道社会福祉協議会地域福祉課
☎(011)241-3977
▶道庁高齢者保健福祉課 ☎(011)204-5272

北海道の暮らしの価値づくり

●移住ニーズに応じたサポートを強化

道では、市町村やNPO法人「住んでみたい北海道推進会議」などと連携して、現役世代を中心に幅広い世代の移住を促進する取り組みを進めています。

その一つとして、東京・大阪・名古屋で「北海道暮らしフェア」を毎年開催するほか、移住情報ポータルサイト「SHIFT LIFE北海道」では、「しごと」「住まい」「暮らし」など、移住を検討するために必要となるさまざまな情報を提供しています。

さらに、本道への移住に関する相談窓口「北海道ふるさと移住定住推進センター」を道庁内に開設。今年度中に東京にも窓口を開設する予定です。

SHIFT LIFE北海道　検索

▶北海道ふるさと移住定住推進センター
(道庁地域創生局地域政策課内) ☎(011)204-5089

一緒に楽しむ仲間として体験移住者とふれあいたい。

うらかわ暮らし案内人 大久保 直幸さん

山菜採りの案内をする大久保さん

浦河町には、道外から年間50組以上の体験移住者が訪れます。そのサポートをしているのが私たち「うらかわ暮らし案内人」。山菜やキノコ狩り、釣り、カヌー、乗馬など、登録した17人の町民と4つの団体が自分の特技を生かして「うらかわ暮らし」の楽しみ方をボランティアで案内しています。

訪れた人たちに楽しんでもらおうとするなら、単に住宅の提供だけでなく、自分たちの仲間として積極的にふれあうことが大事。バーベキューなど交流の場づくりもその一環です。

浦河町で体験移住「ちょっと暮らし」がスタートして約10年。現在は延べ滞在日数で全道トップクラスのまちになり、体験をきっかけに定住した世帯は60組以上にのぼります。交流人口を増やすことで、浦河町の活性化につながればと願っています。

●北海道の優位性を生かした企業誘致

首都圏をはじめとする大都市圏での人手不足や自然災害リスクの分散などを背景として、北海道に本社機能を移転したり、コールセンターなどオフィスを新増設したりするといった動きが目立っています。

また、パソコンなどを利用し、場所や時間にとらわれない「テレワーク」という働き方が注目され、北海道でも推進事業が行われています。

道では、さらに企業誘致を進めるため、北海道の優位性を道外企業に知ってもらう大都市圏でのフォーラムやセミナーを開催。市町村の支援制度や物件の紹介などを通じて、ビジネスの場としての北海道の価値を発信していきます。

▶道庁産業振興課 ☎(011)204-5324

自然災害リスクの低さと人材の豊富さが移転の決め手に。

アメリカンファミリー生命保険会社(アフラック)
札幌システム開発オフィス オフィス長 清水 竜作さん

当社の本社機能は東京にあり、そのうちシステム開発部門の一部をことし4月、札幌市に移転しました。ねらいは、大規模災害のリスクに備えて事業継続体制を強化するためです。また、有望な人材が集まりやすい大学の数やIT人材が多いことから、優秀な人材の確保が期待できることも移転の決め手になりました。

新設した札幌のオフィスは約30人でスタート。2017年末までに100人体制にする計画で、うち現地採用を60～70人と見込んでスタッフを増やしています。

新しくできた札幌システム開発オフィス

北海道は気候が良く、通勤も快適で暮らしやすいですね。ゆとりある暮らしとスマートな働き方を実現しやすい土地柄だと思います。

お知らせ 北海道

お問い合わせは
▶マークの窓口、またはホームページへ。

ごみの散乱防止などに関するポスター・標語の募集

空き缶などの散乱防止、不法投棄の防止、北海道の環境保全や環境美化を訴える作品を募集しています。

●募集内容

	ポスター	標　語
対　象	小学4～6年生、中学生	道内在住の個人
規　格	B3判か四つ切、彩色自由	15～40字程度
点　数	1人1点	1人3点以内
応募方法	・郵送 ・持参	・郵送・持参 ・FAX・メール

※いずれも指定の応募票に記載してください。

●応募先

郵送	〒060-8588 (住所不要) 北海道 循環型社会推進課
持参	札幌市中央区北3条西6丁目 北海道庁 本庁12階 環境生活部 循環型社会推進課
FAX	(011)232-4970
メール	kansei.kanhai1@pref.hokkaido.lg.jp

※いずれも循環調整グループあて

●締切／9月5日(月)当日消印有効

詳しくはホームページをご覧ください。
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/jss/kikaku/sakuhinkoubo.htm

▶道庁循環型社会推進課 ☎(011)204-5197

無理のない範囲で節電を

ご理解・ご協力をお願いします

節電は、家庭や企業に電気を安定的に届けるために欠かすことのできない取り組みであり、地球温暖化対策や省エネルギー促進のためにも継続していくことが大切です。

部屋を冷やしすぎないよう心がけうる、こまめに消灯するなど、無理のない範囲での節電にご協力をお願いします。

エネーズ
こまめさん

▶道庁環境・エネルギー室
☎(011)204-5886

北海道博物館特別展「ジオパークへ行こう！」

−恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅−

恐竜や火山など地球に残る謎を解き明かしてくれる場所、大地の公園・ジオパーク。

道内5カ所のジオパークとともに、北海道の自然・歴史・文化の魅力に迫りながら、地球の不思議を探す旅に出てみませんか。

動く恐竜©ココロ

◎期　間／9月25日(日)まで
◎休館日／月曜日(9/19を除く)、9/20(火)
◎時　間／9時30分～17時
(入場は16時30分まで)
◎観覧料／一般600円、高校・大学生300円
※中学生以下、65歳以上は無料
▶北海道博物館 ☎(011)898-0466

農業用水路での事故防止のお願い

注意を呼びかけましょう

5～8月は、農作業の本格化で農業用水路の水量が増え、流れも速くなるため、水路への転落が大きな事故につながることが心配されます。

日ごろから家庭や町内会などで、子どもや高齢者が危険な場所に近づかないよう注意を呼びかけてください。

また、水路の近くで遊んでいる子どもを見かけたときは、「危ないよ」とひと声かけましょう。

▶道庁農業施設管理課 ☎(011)204-5966

自衛官を募集します

お問い合わせはお早めに

平成28年度自衛官候補生、一般曹候補生、航空学生を募集します。試験期日や会場など、詳しくはお気軽にお問い合わせください。

タクマくん　ユウちゃん

●お問い合わせ先
札幌地方協力本部 ☎(011)631-5472
函館地方協力本部 ☎(0138)53-6241
旭川地方協力本部 ☎(0166)51-6055
帯広地方協力本部 ☎(0155)23-5882
▶道庁市町村課 ☎(011)204-5152

お肉はしっかり焼きましょう

鶏や牛のお肉やレバーには食中毒を起こす病原体が付いている場合があります。ご家庭での食中毒予防のために、以下のことに注意しましょう。

- お肉は10℃以下で保存しましょう。
- 生のお肉を使ったまな板、包丁は使用の都度、洗いましょう。
- お肉は中心部の色が変わるまで焼きましょう。
- 焼肉の際には、生肉を扱う箸やトングと焼けたお肉の取り箸は分けて使いましょう。

▶道庁食品衛生課 ☎(011)204-5261

近美コレクション「北海道美術紀行」

北海道立近代美術館で開催

道内には、映画のロケ地にもなるなど、国際的に人気が高い観光地が数多くあります。かつて画家たちが捉えた北海道のイメージと、現代のイメージを重ねながら紹介します。

北岡文雄「ライラックの季節」(1986年／道立近代美術館蔵)

◎期　間／11月8日(火)まで
◎休館日／月曜日(9/19、10/10を除く)、9/6(火)～8(木)・20(火)、10/11(火)
◎時　間／9時30分～17時
(入場は16時30分まで)
◎観覧料／一般510円、高校・大学生250円
※中学生以下、65歳以上は無料
▶道立近代美術館 ☎(011)644-6882

地域ニュース

総合振興局・振興局の話題をお届けします。

留萌振興局

夏の離島アクティビティー、充実しています！

留萌管内羽幌町の天売島では、島の有志が集まった(一社)天売島おらが島活性化会議が中心となり、「シーカヤック(カヌーの一種)」や「ウニ採り」、「星空満喫ナイト」といった島の自然を生かしたアクティビティー(遊び・体験)の提供をことしの夏から開始しました。

天売島でシーカヤック

焼尻島の空と海とめん羊牧場

また、同町の焼尻島でも、地域おこし協力隊が「焼尻めん羊牧場」や国の天然記念物に指定されている「オンコの原生林」など、島の見どころを案内するガイドウォークを7月から実施しています。

これらの取り組みは、島の活性化を促し、島の若者やUターンした人々の雇用の場をつくっていくことを目指しています。

この夏はふたつの離島へ出かけてみませんか。

▶羽幌町観光協会 ☎(0164)62-6666

檜山振興局

「ひやまバリアフリーレジャー」を進めています。

檜山地方では、北海道新幹線の開業やバリアフリーホテルのオープンを背景に、障がいのある方や高齢者などが観光を満喫できるよう、観光資源のバリアフリー化に取り組んでいます。

今年度、振興局は管内の観光資源の総点検を行い、管内7町は障がいのある方などが海水浴や雪上体験、アウトドア体験などを利用しやすくなるように整備。モニターツアーを行って利用者の意見を集め、誰もが楽しめるレジャーのメニューを拡大していきます。また、この活動を支える人材育成のため、宿泊・観光施設などを対象とした研修を実施するほか、地域住民への講習も行います。

▶社会福祉課 ☎(0139)52-6651

誰もが楽しめるバリアフリービーチ

PRチラシ

北海道新幹線で、さらに身近に！ でかけよう！ おいしい東北へ

岩手県、宮城県、福島県から届いた「食」の話題を紹介します。

岩手県から　希少な「いわて短角和牛」、ぜひご賞味を。

岩手県は、東北第1位、全国第5位の肉用牛の飼養頭数※1を誇り、中でも日本短角種の飼養頭数が日本一※2の畜産県です。希少な「いわて短角和牛」は、ヘルシーな赤身肉と、かみしめたときの食感が良いのが特長です。アミノ酸が豊富なため、ひと口ごとに肉のうま味が広がります。子牛は自然交配で生まれ、親子で高原に放牧され、その後、牛舎で愛情を込めて育てられます。のびのびと育ったおいしさ、一度味わってみませんか。

※1 農林水産省 畜産統計(平成27年2月1日調査)
※2 独立行政法人家畜改良センター(平成28年5月20日公表)

赤身でヘルシーないわて短角和牛のステーキ

▶岩手県広聴広報課 ☎(019)629-5283

宮城県から　仙台発祥、味わい深い「牛たん」をどうぞ。

仙台発祥で、今や全国で人気の牛たん。味付けし、炭火で焼き上げうま味や肉汁を閉じ込め、漬物や麦飯、テールスープとセットにしたものが仙台名物の伝統的な「牛たん定食」です。仙台市内にはおよそ100店の専門店があり、塩、たれ、味噌など各店秘蔵の味付けをしています。牛たん焼き以外でも「スモークタン」「たんシチュー」「牛たんつくね串」などのさまざまな料理でその味わいを楽しむことができます。仙台を訪れたら、いろいろな牛たんを味わって、お好みの味を見つけてみませんか。

▶宮城県広報課 ☎(022)211-2283

牛たん、麦飯、テールスープのセットが定番

福島県から　果物王国ふくしまにお越しください。

福島県では、生産量が全国第2位※の「モモ」や、第4位※の「日本なし」、ブドウ、カキ、リンゴなど多くの果物を楽しむことができます。中でもモモは、全国生産量の約20%を占めており、品質も高く評価されています。7月下旬～8月上旬の「あかつき」や8月下旬～9月上旬の「ゆうぞら」など、7～9月にかけ、たくさんの品種がリレーして出荷されます。福島市の西部に広がる「フルーツライン」には観光果樹園や果物の直売店が軒を連ねており、果物狩りを楽しめます。ぜひ、福島県にお越しいただき、旬の果物をもぎたてで味わってみませんか。

※平成27年産、農林水産省「作物統計」調べ

甘くみずみずしい桃「あかつき」

▶福島県広報課 ☎(024)521-7014

北海道クイズ 答え：大地くんとめぐみちゃん。地元でとれたものを地元で消費する地産地消や、食の安全性・文化を学ぶ食育などを推進する「愛食運動」PRキャラクターです。

北海道 ひと・人・くふう 鉄道遺産編

アイデアも道産!

北海道を豊かにする、地域の皆さんの「ひと工夫」を紹介します。

陸別町 小樽市

体験乗車で工夫!

廃線跡の駅・線路や、体験列車で、陸別を元気に。

観光鉄道「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」【陸別町】

廃線となった「ふるさと銀河線」の旧陸別駅に、ホームや線路などの鉄道施設をそのまま利用した体験型観光施設があります。

元運転士の指導のもと小学生※1でも列車の運転体験ができ、18歳以上※2であれば、1.6kmを往復するコースも体験可能です。また、乗車体験では隣駅跡まで往復するコースが人気です。

元運転士や保線員をはじめ、「ふるさと銀河線」に思い入れのある人々が道内外から集まり、スタッフとして4月下旬～10月下旬まで運行体験を支えています。

※1 小学生の運転には、条件があります。※2 駅構内コース体験者に限ります。

旧陸別駅や周辺線路を利用して走る体験列車

運転体験の距離の長さ、他では体験できません。

子どものころから鉄道の運転士になるのが夢で、大学時代は全国の運転体験施設をめぐっていました。6年前、初めて陸別町を訪れて体験したとき、運転できる距離が長く、指導運転士からマンツーマンで教えてもらえることに感動しました。

地元の皆さんの優しさや観光資源の可能性に惚れ込み、卒業後、「地域おこし協力隊」に応募。埼玉から移り住みました。いまの夢は、走行距離をさらに延ばすこと。できれば鉄道博物館もつくりたいです。

陸別町観光推進専門員 熊谷 亨介さん

▶お問い合わせ　ふるさと銀河線りくべつ鉄道 ☎(0156)27-2244

写真展で工夫!

歴史ある鉄道跡地が会場、24時間楽しめる野外写真展。

旧手宮線「小樽・鉄路・写真展」【小樽市】

1880年に鉄道が走った旧手宮線跡地(小樽市色内2丁目10)を会場に、2000年から野外写真展が開催されています。年間を通して、道内のプロカメラマン、写真愛好家、学生たちが集い、小樽市内を一緒に撮り歩く撮影会や鑑賞会を開きながら、8月下旬の写真展に向けた準備を進めています。

それぞれ自由なテーマで廃線跡に写真を展示し、24時間見学できるよう夜間照明も完備。「野外での写真展は珍しい」と、外国人観光客にも評判です。ことしは8月29日(月)～9月11日(日)に開催予定。

旧手宮線跡地が写真展の会場に

夜も楽しめるので、黄昏時からの鑑賞がおすすめ。

旧手宮線は、幌内炭鉱から石炭を小樽港に運ぶために敷かれた鉄道の跡地。その歴史と存在感にひかれ、空間に負けない作品にしようと、毎年、出品者たちは格闘しています。

写真展の準備をしていると、差し入れをいただいたり、小樽の昔話が聞けたり、地元の人々と交流できるのも楽しみのひとつ。ことしで16回目の開催となりますが、野外展示なのに無くなった作品は一枚もない。これは僕らの誇りです。

小樽・鉄路・写真展 実行委員会 瓜生 裕樹さん

▶お問い合わせ　小樽・鉄路・写真展実行委員会(担当:岩浪) ☎090-3892-5192

キラキラ!どさん子

道内各地で、未来に向かってきらきら輝くそんな子どもたちを応援します。

全国でも珍しい! 小学生がミツバチを飼育しています。

訓子府町

町立居武士小学校の「ミツバチの養蜂学習」　訓子府町

メロンや玉ねぎの産地として知られる訓子府町。この町で三代続く菅野養蜂場では、「ミツバチの働きで農作物が育つことを伝えたい」と、16年前から町立居武士小学校の総合的な学習の時間で養蜂の指導を続けています。

授業は5、6年生を対象に、巣箱の製作、ミツバチの観察、採蜜などプロと同じ作業や、ハチミツ料理、蜜ろうキャンドルづくりも体験します。

真剣にハチミツを採取する児童

中村厚志校長は「最初は怖がりますが、ハチの生態を知ったり、扱いを覚えたりするうちに、一匹が一生かけて集めるハチミツの少なさに驚き、食べ物の大切さに気づくようになります」と、児童の成長を感じています。

▶お問い合わせ　町立居武士小学校 ☎(0157)47-3160

当たる! 北のおいしさ!

「北のハイグレード食品+2016」に選ばれた(有)余湖農園「完熟トマト鍋スープ」(3個セット)をプレゼント!
恵庭産完熟トマトのおいしさです。

●当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。

抽選で30名様

次のアンケートに答えて道産品を当てよう!

8月号の中で興味を持ったのは、どの記事ですか

①特集(北海道らしい安心の暮らしづくり)
②お知らせ北海道　③地域ニュース　④でかけよう!おいしい東北へ
⑤ひと・人・くふう　⑥キラキラ!どさん子

●応募方法:アンケートの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本紙への意見・感想を記入の上、ハガキ、パソコンまたは携帯サイトでご応募ください。

●応募期限:8月25日(木)必着 応募いただいた方の個人情報は、当プレゼントの発送以外には使用いたしません。

●応募先　ハガキ　〒060-8588(住所不要)
北海道広報広聴課「当たる!北のおいしさ!」係

パソコン　広報紙ほっかいどう　検索

携帯サイト

●掲載記事の関連ページ、広報紙アンケート結果、広報紙のバックナンバーなどの閲覧も上記からアクセスできます。※6月号のプレゼントには、3,894件の応募をいただきました。

次号のお知らせ　10月号は9月21日(水)から配布予定です。

VEGETABLE OIL INK　R70 みんなの文字
この広報紙は環境に優しい植物性インキと古紙配合率70%再生紙を使用しています。本文には見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

広告

※この広告は、広告主の責任において北海道が掲載しているものです。

お知らせ　毎週金曜日配信!道政情報や地域の話題をお届けする北海道メールマガジン「Do・Ryoku(動・力)」。ご登録は道のホームページから。